

小坂よしひさ 粋いき台東へ 身近な区民のサポーター！



令和1年度

27号



台東粋いき新聞

令和1年
第2回定例会

代表質問に登壇

令和1年第2回定例会にて公明党を代表し、6月11日に質問を行いましたので要旨を掲載します。

区政運営について

- Q**
- ①今後の区政運営にあたって、重要視している課題と、その解決策について伺う。
 - ②来街者が増加する本区にて、地域住民の生活に弊害が及ぶことが懸念されるが、その対応について伺う。

- A**
区長
- ①待機児童対策や地域包括ケアシステムの更なる強化、自然災害への備えなど重要な行政課題が多岐にある。効果的・効率的な行財政運営を推し進め、一層の発展に向け邁進する。
 - ②これまででも区民生活への影響を考慮し、様々取り組み、成果を上げてきたが、今後も観光客の増加傾向は続くと思われるので更なる対応が必要である。宿泊や交通、生活環境対策などの取り組みを一層充実させていく。

交通安全対策について

- Q**
- ①本区における交通安全対策について伺う。
 - ②本区における子供の交通安全対策について教育長に伺う。

- A**
区長
教育長
- ①運転免許自主返納制度の支援や主要な病院への通院など利便性の向上に取り組んでいる。区道上で交通事故の多い場所において、要因等の調査を実施し、交通環境の整備に努める。
 - ②随時、通学路点検や交通規制、横断歩道の設置、交差点の強調表示や路側帯のカラー化など実施。子供の安全巡回パトロールによる見守りのほか、交通安全指導を計画的に行っている。「学校安全計画」や「危機管理マニュアル」について再点検を行う。



6月11日の代表質問に登壇

「希望ある幸齢社会」について

- Q**
- ①公明党では「活動寿命」という考え方を提起しており、その延伸に取り組むべきと考える。
 - ②あらゆる機会を通じて、「地域包括ケアシステム」の普及を図るべきと考える。
 - ③今後の認知症施策について、伺う。

- A**
区長
- ①高齢者が、健康で自立した生活を営み、その知識や経験を活かし活動できる社会の実現は大変重要である。「活動寿命」という提案は、貴重なものと考えている。
 - ②「地域包括ケアシステム」の取り組みへの理解は、大変重要である。介護の日などイベントや日頃の相談業務など様々な機会を捉えて周知に努める。
 - ③認知症サポーターが家庭や職場など身近な場所での理解を広める取り組みや、適度な運動や適切な食事等の重要性の啓発など着実に進める。国が策定を進めている認知症対策を注視しながら新たな取り組みを検討する。



©KOMEITO

新たな陣容で出発！

台東区議会第1回臨時会(5月16日)において議会三役が選任され、区議会公明党として新しい陣容で出発しました！

【議会三役】

石塚 猛 議長
鈴木 純 副議長
中澤 史夫 監査委員

【会派構成】

区議会公明党幹事長 小坂 義久
副幹事長 小菅 千保子
政調会長・会計 寺田 晃

【所属委員会】

企画総務常任委員会 ▶ 小菅 千保子 (副委員長)、中澤 史夫
区民文教常任委員会 ▶ 小坂 義久
保健福祉常任委員会 ▶ 松尾 伸子 (副委員長)
産業建設常任委員会 ▶ 寺田 晃
子育て・若者支援特別委員会 ▶ 小坂 義久 (副委員長)、松尾 伸子
環境・安全安心特別委員会 ▶ 寺田 晃 (委員長)、中澤 史夫
文化・観光特別委員会 ▶ 小菅 千保子
交通対策・地区整備特別委員会 ▶ 小菅 千保子、松尾 伸子

第3回定例会の決算特別委員会(10月1日~28日)において、10月21日に総括質問を行いましたので質問要旨を掲載いたします。



10月21日の総括質問に登壇

平成30年度決算に対する総括について

Q 平成30年度は区長にとって1期目総決算の年に当たることが総括について何う。また、総括の思いを踏まえ、今後2期目の区政展開について併せて何う。

A 区長 就任以来、皆様にとって誇りと愛着が持てるまちとなるよう「躍進台東 新しい台東区」の実現に向け様々な施策を展開してきた。平成30年度には、区政運営の最高指針である基本構想を策定。将来像として「世界に輝くひとまち たいとう」を掲げ、区の20年後の姿をお示しすることができた。2期目に当たって多岐に渡る区民ニーズや行政課題にきめ細やかに対応し、将来像の実現に向け、全力で邁進していく。

「台東区総合戦略」について

Q ①「台東区総合戦略」で設定しているKPIの進捗状況についての分析、評価方法について何う。
②現状の課題は、その解決に向けての取組みについて何う。
③新たな行政計画との整合性は図られているのか、何う。
④今後の計画策定についての考えを何う。

A 区長 ①学識経験者、区民代表らで構成された進捗検証委員会において、KPIの進捗状況や効果等について報告し、意見を聴取することで評価している。
②明らかになった課題について、各委員からの意見を踏まえ、検討を行うほか行政評価等も活用しながらKPIの着実な推進に向け取り組んでいる。
③新たな計画を策定しているため位置付けている施策等に違いが生じていることから、今後、整合性を図っていく。
④将来にわたり活力ある地域社会を実現していくために新たな総合戦略を策定し、地方創生の更なる推進を図ってまいりたい。

職員研修について

Q 区民サービスが多様化・高度化する中、ゼネラリストだけでなく専門的な業務遂行能力を持つスペシャリストが重要と考えるが、その育成のためどのような研修を進めるのか何う。

A 区長 これまで専門分野の研修を受講させることで、より高度な知識や能力を持った職員の育成に努めてきた。スペシャリストの育成が必要な分野や業務が増えていると認識している。今後とも、様々な研修を充実させ専門性の高い人材の育成に取り組んでいく。

住宅施策について

Q ①空き家活用モデル事業は、現行の事業形態では活用が難しいと思われる。そこで3点何う。
ア、現在、空き家の多い地域について
イ、空き家が多い地域に限定したモデル事業の実施について。
ウ、抜本的に事業内容を見直すことについて
②居住支援協議会の具体的な事業内容について何う。また、高齢者等への入居支援の一環として、空き家活用を検討したらどうか何う。

A 区長 ①ア、区内全域に存在し、中でも、上野地域や浅草北部地域に比較的多い状況となっている。
イ、今後、先進自治体の取組みを参考にしながら、地域を絞った限定モデル事業も含め、様々な手法を検討していきたい。
ウ、賃貸住宅として活用する際、所有者の意向や耐震性の確保、改修費用の負担などが課題となっており、制度全体を見直す必要がある。
②住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居促進を図ることであり、今年度中の開設を目指している。今後、空き家活用について協議会の中で議論していく。

「学校における働き方改革プラン」について

Q ①「働き方改革プラン」の実践により改善されたことは何か。
②取組みによる地域、PTAからの要望・意見について何う。
③あらゆる機会を通じて教員の長時間労働の状況について発信する事が大切であると考えているが。

A 教育長 ①スクールサポートスタッフの配置や、調査の精選など教員の専任業務の改善に取り組み、限られた時間の中で最大限の効果を発揮しようとする教員の意識改革も図られた。
②概ね、好意的に受け止められている一方、行事等の見直しについて、地域やPTAの理解を十分得られなかったため不安の声をいただいていることも認識している。
③プラン策定時にリーフレットを作成し、町会、保護者の皆様へ配布した。今後、新たな取組みを進める際や、成果が出た場合など、機を見て、地域、PTAに対して長時間労働の状況について発信をする。

